

平安女学院がマスコミに報道されました！！

インターハイ向け練習に熱気



厳しい条件 練習量でカバー
7年ぶり9度目の出場



「魅了する演技」へ決意

「大歌声の中の試合会場で雰囲気にまれないよう

7月28日から8月20日まで埼玉県で開催される全国高校総体(インターハイ)「彩夏型08埼玉総体」の団体(新体操種目)に、上京区の平安女学院高校体操部(新体操)が7年ぶり9度目の出場を果たす。レギュラーメンバー15人のうち3人が1年生という厳しい条件で、練習量でカバーした。インターハイに向けて練習に励む体育館は熱気に包まれている。(写真上)

平安女学院高校体操部(新体操)

ノーミス課題

昨年の府予選会では自分たちのミスで敗れたため、今年は「ミスに」こだわった。大会当日は「観客が女性敵に見るほどメーカも緊張していたので、練習で和ませよう」と心がけた。3年でキャプテン

の若林いづみさん(17)。「そのかいあってか、演技中つた友人や家族、いろんな人に感謝の気持ちでいっぱい」と話したのは、2年吉田美紀さん(16)。「同校の体技は1996年から21年ぶりに団体優勝は100回を超え、そして21年前、その体操部員は9人(写真下)。小密教諭は「今まで一番多く練習するチーム」と誇り、1年生にとっては特に入学してから2カ月という限られた期間での練習のため、放課後の練習に加え、朝練や気休めを利用した自主練習と、割ける時間を練習に費やしてきた。大会までの間、特に重視するのは「パート練習だ。テンポの速さや姿勢などは、自分で客観的に評価するのが難しいため、互いに確認しあう。さらに、通し練習で1日3回ノーミスの演技を目指す。」「大歌声の中の試合会場

平安女学院高等学校 インターハイ出場決定！！

音楽が流れ始めた。リズムに合わせて「1、2、1、2」と声を合わせ、軽やかな足取りで練習に臨む部員たち。フロアに入れない選手も、同じ道具を使って手で同じ動きをしたり、足でリズムを刻んだりしてチー

印象に残る演技したい

も約30分ほどの合間を縫って体育館に駆け込む。しかし、通学圏の広い私学で女子校のため、夜は8時までには終わるようにしている。「高校総体に出る」という目標に妥協をしない一方、限られた時間でいかに集中

インターハイ出場を決めた 平安女学院高校体操部(新体操)



しなやかな動きを披露する平安女学院高校体操部(新体操)の部員たち(上京区で)

するかも、練習の大きな課題にしてきた。創作力が高いのも今年のメンバーの特徴。作品の骨格を小崎教諭が示すと、次々に肉付けする。現在もいくつかの技の難易度を上げてみたりと、高校総体の本

番で0.1秒でも採点を上げるために改良中だ。主将の若林いづみさん(17)はただ一人の3年生。「高校総体に出る」と言い続け、夢をかなえた。「見る人の印象に残る演技をしたい」と意気込んでいる。

2008年6月25日(水)
朝日新聞「あいあいAI京都」

2008年7月9日(水) 読賣新聞
「わくわくスポーツ 京都滋賀版」